

平成25年度 学校評価総括表

伊丹市立高等学校

教育目標		勤労生徒としての自覚を促し、広い教養を身につけるとともに、こころ豊かな人間性を養い、人間尊重の精神を備えた人材を育成する。															
本年度の重点目標		(1) 学校規模の縮小化に対応しながら、個に応じた丁寧な指導の徹底を図る。また、学習習慣の確立を図り、自ら学び考える力を育成するとともに生涯学び続けていくための基礎基本を確実に定着させる。 (2) 基本的な生活習慣、道徳観、倫理観等の確立を図るとともに、相互理解、相互信頼を深めながら自尊感情を高め、健全な規範意識やマナー意識・社会性を育てていく。 (3) 2年後の閉校に向けての準備を進めながら、家庭や地域社会との連携を密にし、地域に信頼され、記憶に残る学校づくりを推進する。															
重点目標	分掌	取り組み	中間評価	改善点	最終評価	◎ △×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △×	改善策				
1 学習活動における、 個に応じた丁寧な指導と基礎・基本の定着	3年	学習活動にしっかり取り組むと共に、将来の進路設計を考えさせる。	定期考査前の補習や実習科目等においてはTTによる個に応じた指導ができた。	補習や個に応じた指導をこれからも続けていく必要がある。	定期考査前補習だけでなく、日々の苦手教科補習も若い先生を中心に行われ、生徒も大変意欲的に補習に参加していた。3卒生の進路指導もクラス担任の先生及び進路指導部の先生を中心に情報収集・受験対策等を行った。今後は生徒の進路に対する準備をできるだけ早い段階からできるよう指導することが重要である。	◎		◎		◎		学校生活の後半に入り、本格的に進路学習に向けての指導、準備が行われてきたことは大きな意義がある。	◎	これまでの個に応じた補習に加え、新年度早々から、進路に向けての学習、就職試験対策補習も取り入れる。			
	4年	生徒個々の希望に応じた、適切かつ丁寧な進路指導を行う。	進路希望を明確に持てない生徒の動きが鈍く、指導に時間がかかった。	夏に実施した勉強会や面接指導の期間(それぞれ3日間実施)を延長して、問題演習や志望動機の文章化など具体的な学習をさせる。	進学希望者には早い段階からの指導が可能であったが、就職希望者の動きが鈍く、2学期後半から3学期に入って慌て出す生徒が多かった。進学、就職とも良い結果を残すことができたので、新4年生にはより早い段階からの進路指導の必要性について伝えておきたい。保護者、生徒、職員とも高い評価を得ることができた。	◎		◎	アンケートでの評価が高い	◎		進路への自覚、準備、指導が本格的に行われ、取り組みへの具体化が進んだことは収穫と言える。	◎	今年度の取り組み(特に進路指導について)の成果及び課題点を整理し、次年度の活動に生かしていく。			
	総務	学習環境の整備をすすめる。	各教室に扇風機の配備を行った。	空調については、阪神昆陽の理解を得ながらより快適な学習環境を確保できるようにしたい。	昨年に比べ、空調については阪神昆陽の理解を得て要望に応じてもらえるようになった。	○		◎		○			阪神昆陽高校との連携の下、学習環境整備が進められたことは、更なる前進と言うことができる。	◎	空調については阪神昆陽高校との協議によるしかないが、出来るだけ要望を伝えていく。また、担任からの要望を聞きながら問題点があれば改善して行きたい。		
	教務	少人数クラスでの授業、チームティーチングの実施により、生徒の適性に合わせた指導を充実させる。	少人数クラスでの授業やチームティーチングの実施により、全教員で生徒の指導に当たった。	次年度に向けて、選択科目その他、生徒の希望調査も実施しつつ検討しているところである。学習に消極的な生徒について、なお一層、指導の充実をはかるよう努力したい。	生徒のニーズや進路を助産し、次年度の選択科目の見直しを行った。少人数クラスでの授業やチームティーチングについては一定の評価を得ていると思うが、さらに生徒の適性や進路希望に応じた指導を工夫していきたい。	○		○		○		○	十人十色、学力差も多岐にわたる中、T.Tの実施、個人指導と中心とする強化策は、意義ある取り組みとして評価される。	◎	選択科目群の中に、総合的な学習の時間を加え、教科科目に縛られず、生徒のニーズや課題に応じた学習ができるように改善する。少人数クラス、チームティーチングについても、学習内容や課題に応じて実施していく。		
	生徒指導	学年団の協力を受け、授業規律の徹底を行う。	5月の中間考査後に拡大学年会議(授業担当者会議)を行い、今年度の各クラスの授業時の生徒の様子について情報交換を行った。指摘のあった生徒については担任教員から保護者に連絡のうえ本人に対して指導を加えてもらった。	2学期も同様の取り組みを続けたい。	授業規律の徹底について、保護者・生徒からは過半数を超えるまあまあの評価を頂いたが、職員からは厳しい評価となった。	○	◎	◎		○		○	個人面談等を意欲的に実施し、卒業後の進路について相談に応じていただきたい。動くことがいかに重要なことであるか。	○	来年度はいよいよ第4学年だけの在籍となるので、生徒の行動においてはきめ細かく指導できるようにする。限られた教員で校内巡視をするのは困難だが、時間割を見ながら複数の教員態勢でクラスの授業に関わることができないか考える。		
	進路指導	勉強会などを企画・実施し、生徒の進路実現をサポートする。	早期から生徒への意識付けを積極的に行ったが、期日ぎりぎりになってから動く生徒が多く、準備不足気味となってしまった。	9月に就職試験を受験して不調だった生徒や、まだ進路についてはっきりとした考えを持っていない生徒への指導を続けていく。	進路指導部だけではなく担任の先生方の協力により、未内定者への就職活動への働きかけや履歴書記入・面接指導などを行うことができた。結果、未内定者全員が就職試験を受験することができた。	○		○		○		○	未内定者の結果はどうか。	○	生徒指導と同様、教職員全員で取り組まれるもので、平素の挨拶、服装、言葉づかい、各種マナー等も含め、自覚の喚起指導の成果はあげられたと思う。	◎	就職活動の出足こそ遅かったが、1月2月まであきらめず指導を行った結果ほとんどの希望者が内定を得ることができた。早期の意識付けと共に、不調でもあきらめず挑戦させることは継続していく。
	保健厚生	生徒の個性や特性に応じた就労に向けての担任、保護者との連携及び、進路に向けて基礎学力の定着を図る。	担任と委員会のメンバーで進路に向けての支援活動を行うことができた。	引き続き保護者、担任、巡回相談と情報交換をして行く。	基礎学力の定着のための勉強会が来年度を見据えた上ですることが出来た。	◎		○		○		◎		精神衛生の安定が基本となるので、心身の健康のために、学校・家庭間の密な連携も求められる。	○	3学期から勉強会の生徒も増えてきたので引き続き勉強が定着するように継続していく。	
	情報ビジネス	一人一人の学習状況を的確に把握し、達成感や成就感が得られる教科指導の工夫を図る。	商業関係の検定の取得に向けて、日々の学習活動の他、授業前や放課後の補習を行った。	検定については、普通科の生徒へも周知を行い、積極的に勧めていきたい。	検定の周知を全校生徒対象に行った結果、今年度は普通科の生徒が簿記検定試験3級に合格することができた。生徒の興味や関心・進路についてしっかりと動機付けをして、そこから授業の大切さを理解させるよう努めているが、理解している生徒とそうでない生徒がはっきりとしている。全員が理解できるよう取り組みをさらに進めていきたい。	○		○		○		○	アンケートでもばらつきが大きい。	○	刻々と新かする新時代に向けて、この分野の知識・技術・力量の向上が求められる。その取り組みが頼もしい。	◎	検定の周知については、来年度も継続して生徒全員に呼びかけていく。特に就職希望生徒については、資格取得を励行し情報ビジネス科全体で指導していく。
	事務室	生徒の学習活動に必要な教具等をすみやかに購入する	生徒に必要な教具等を準備することができた。	引き続き準備する。	生徒の学習活動に必要な教具等を準備することが出来た。	◎		○		○		◎		学習活動の側面的、支援的態勢充実への取り組みが、意義深い。	◎	引き続き継続していく。	

重点目標	分掌	取り組み	中間評価	改善点	最終評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	改善策		
2 基本的 生活習慣の 確立と社会性 の育成	3年	基本的な生活習慣を身につけ、仕事に就き安定した生活基盤を築く。	授業開始時の脱帽・挨拶の指導を行った。	就労していない生徒が気になるが、機会を見つけて就職情報を案内していく。	基本的な生活習慣や社会性についてはもう少し時間と実践経験が必要で、例えば学校行事を通しての取り組みで、今年度は修学旅行の中で集団行動や社会性をある程度身につけることができた。社会性の向上についてはやはり就労体験が最も有効であるが、このことは今後の継続課題でもある。	○		○		○	生活習慣の確立は、一朝一夕に行われるものではないので、新年度に向けて、今年度の成長を土台として、有終の美を飾れる学年となることを目指して尽力していきたい。	○	社会性の向上やマナーアップについては、今後も様々な場面で生徒に継続指導していく。		
	4年	日常的なマナー指導を充実させ、一社会人としての常識を身につけさせる。	面接指導だけではなく、授業や日常的な指導による意識できる生徒は増えてきた。	注意されなくても自立的に行動できるよう、継続的に指導していく。	マナーや言葉遣いの指導は進路指導の一環として取り組むことが多いが、日常的に意識させる必要性を強く感じた。保護者、生徒、職員とも評価は高いが、「3」が多く、職員の評価では「2」も18%あるため、さらに努力する必要がある。	○		○		○	この1年間は、進路指導を軸として、自主・自律に向けての成果をあげられたと察せられるが、この結果を次の後輩学年に生かして欲しい。	○	継続的な、生徒の身につくマナー指導を行う必要がある。学年と各部署が連携しながら、日常的に指導して行く。		
	総務	防災の観点から、日常生活について注意を促す。また、式典等の出席態度や来客への挨拶などの指導を行う。	各部署と連携し、指導を行っているところである。防災に関しては、新たなマニュアル作成を計画し、水害にも注意させる。	HRでの防災をさらに呼びかける。	挨拶については徹底できたとは言えない。本人の自覚がなければマナー意識は育たないので引き続き教育活動全般にわたって注意を促したい。防災については二度の訓練を行い、概ね良好であった。来年度はさらに事前指導を取り入れていきたい。	○		○		○	全部署、全行事を通じ、これまで培われた指導の総決算・総仕上げともなる年に向けて、総元締め役割が求められる。	○	生活態度の改善については、家庭の協力を得ながら引き続き教育活動全般を通じて指導して行く。		
	教務	2学年合同授業や自主選択の時間、「総合的な学習の時間」において、規律を守ることやコミュニケーションの重要性に気づかせ、社会性の向上を図る。	閉校を控え、学級規模・学年規模が小さくなり、集団での学習が難しい面が出てきたが、あらゆる機会を捉え、社会性向上をはかる指導を心がけている。	次年度以降も、コミュニケーション能力の向上や規律ある生活に対する意識を高める科目や授業を計画し、継続的な指導をしていきたい。	規律遵守やコミュニケーション能力向上の必要性についての認識は高まってきているが、実力向上のためには、さらに継続的な指導が必要である。	○		○		○	次年度は、スタッフの小規模化も避けられないだけに、教務面での連携と協力体制に期待したい。	○	進路指導部とも協力し、コミュニケーション能力向上のための学習機会を増やすように工夫する。		
	生徒指導	校門・駐輪場の立ち番、校内巡回を行い、挨拶や社会のルールについて指導する。	全教員に協力してもらい、地道に取り組んでいる。	継続する。	全職員の協力をいただき、立ち番・校内巡回の指導を行うことができた。集計上は高い評価をいただいたが、校内での喫煙は続いていて、取り締まられていない。	○	一般常識の理解、習得ができる人間形成に尽力していただきたい。更に良識ある行動と人から「～さんは良い方だな…」と思われる様に育てていただきたい。	○		○	学校全体の小規模化と共に、予期せぬ事態の発生への懸念も感じられ、対応策課題対応に取り組む必要がある。	○	今年度、薬物乱用の防止のための講演会を行った。違反者を取り締まることにとどまらず、根本的に生活を見直す啓蒙活動的な講演会等を計画したい。		
	進路指導	社会で求められる人物像を提示し、ルールやマナー遵守の姿勢を育てる。	面接指導時に所作や言葉遣いなどを指導した。提出する書類については、期限直前に作成することがないように指導した。	受験のためだけではなく、卒業後社会に出ることを見据えて指導を継続していきたい。	履歴書記入や面接練習を通して指導してきたが、その時だけで定着していない。ルールやマナーにおろそかであったり、普段の学校生活から所作や言葉遣いに気をつけるようにしないと、いざという時に恥ずかしい思いをすることをもっと強く指導していく必要がある。	△			○	実情はどうか。	△	残る1年間で、取りこぼしなく、すべてが完全に終われる様な、手立てに向けて、総決算の決意が求められる。	○	面接指導の時だけに限らず、普段からのマナーや所作を意識するような指導をしていく。また、基礎学力修得にも力を入れる。	
	保健厚生	健康について情報を提供するとともに、校内、校舎外の清掃活動に取り組む。	健康診断結果の情報提供。校舎内の清掃活動も生徒全員で取り組むことができた。	文化祭があるので清掃活動を積極的に取り組んできた。	生徒が積極的に清掃活動に参加した。	○			○		○	○	環境衛生、精神衛生の向上手立ての下で、健康的な人材の育成が課題となる。	○	生徒に呼びかけて、一人でも多くの生徒が清掃活動に参加できるように呼びかける。
	情報ビジネス	挨拶や言葉遣いなど、ビジネスマナー教育の徹底を図る。	選択科目「商業技術」において、社会人としてのマナーについての講義や、電話対応・言葉遣いについての学習をおこなった。	授業だけでなく、日常の言葉遣いについて日頃から指導にあたっていきたい。	全体としての挨拶・言葉遣いについては以前より向上しているが、一部の生徒の集会時の私語が目立つ。集会時はもとより、授業や職員室における指導についても職員全体で指導にあたっていきたい。	○			○		○	○	例えば小さな呼びかけでも、一点集中、辛抱強い全校的・恒常的指導が、実を結ぶことも考えられる。	◎	来年度も継続して指導していく。全職員の協力の下、職員室への入室マナーについての指導を徹底していく。
	事務室	個々の生徒に書類の書き方の指導・助言をする	書類の書き方の指導・助言をすることができた。	引き続き指導・助言を行っていく。	書類等の依頼や受け取り時に生徒に指導・助言ができた。	◎			○		◎	◎	事務局スタッフの方々の対応もまた有効な指導の一助となっていることの自覚による実践の意義は大きい。	◎	引き続き継続していく。
	みどり組	アンケートや面談を通して、いじめの早期発見に努めるとともに、学校全体で組織的にいじめを起させない体制づくりを推進する。	1学期に全校生徒を対象として「いじめアンケート」を実施し、実態把握に努めた。結果として、問題になるような事案はなかった。	アンケートの形式等を工夫し、実態把握がいつそう円滑に行えるよう努める。また、国や県、市の様々な通知等の資料を活用し、職員の意識をさらに向上させる。	記名式の「いじめアンケート」に変更して実態を把握したが、問題になる事案はなかった。組織的に丁寧な対応ができ、職員の意識も高まりつつある。	○			○		○	○	「保健衛生」と相まって、心の健康、精神衛生面へのアプローチもまた不可欠を思われる。	◎	法律の施行を受け、「いじめ防止基本方針」を今年度内に策定し公表する。これに基づき、生徒が安心して学校生活を送れるよう指導体制等をいつそう充実させる。

重点目標	分掌	取り組み	中間評価	改善点	最終評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	改善策	
3 家庭や地域との緊密な連携と地域への貢献	3年	学校から家庭への情報発信として、毎月1回、学年通信を発行する。	毎月1回、学年通信を発行できた。	今後も月1回学年通信を発行していく。	学年通信については、年間行事計画をもとに学年担当者が、毎月大変きめの細かい配慮でその月々の生徒が必要な情報を常に満載して発行し、それと同時に家庭への情報発信にもつながった。	◎		◎	学内の様子がよく分かる。	◎	2年次に続き、毎月の学年通信の発行は、格別、学校とのつながり、信頼を強化するものとして意義あるものであった。	◎	学年通信は生徒にとっては、必要なものとなっており、新年度もさらに充実させて月1回発行する。	
	4年	学級通信・学年通信を適宜発行し情報を発信するとともに、保護者と連携しながら生徒の指導を行う。	各担任や各部署から発行される通信は充実しており、情報発信はできている。	配布したプリントを家に持ち帰らない生徒もいるので、学年通信や進路通信などはホームページにも掲載していきたい。	学級通信、学年通信とも当初の目標通り発行することができた。生徒が持ち帰らないことがあるためホームページへの掲載も考えたが、実現できなかった。生徒の評価で「2」が21%もあるのが気になるが、保護者、職員の評価は非常に高かった。	◎		◎		◎	学年通信に加え、学級通信も取り入れられ、「市高だより」と併せ、保護者との連携にも貢献するものとなった。	◎	学年の取り組みについて、ある程度の情報発信を行うことができた。発信方法についてはより良い方法を今後も検討していく。	
	総務	学校行事などの公開を通じて、地域からの理解を得る。	体育祭をはじめ、可能な限り案内をし、理解を得るようにしている。	危機管理上、公開に制限はあるが、文化祭に向けて各方面と協議しながら、地域への案内について計画する。	各委員会によれば、公開された行事や講座は好評で、地域の方の参加者も多かったようだ。総務部としては出来るだけ委員会に協力していきたい。	○		○		○	各行事、公開行事等の企画・案内は、きわめて意義あるもので、地域の人々に親近感を深めるものとなった。	◎	各委員会から提示された企画が円滑に実施されるよう、協力体制を作る。	
	教務	「体験活動」および学校設定教科「地域と学校」を通して、地域への貢献を図る。	夏休みに地域の方々と生徒が共に学ぶ「サマー講座」を企画、実施した。参加者には好評をいただいた。冬休み期間にも計画中である。「体験活動」を実施している生徒の活動場所を訪問し、活動内容を確認した。	サマー講座等は、時間設定や案内方法など工夫しながら継続していきたい。	「サマー講座」に引き続き、「ウィンター講座」を実施した。参加生徒は限られたものの、地域の方々と共に学ぶ経験は有意義だったと思う。	◎		◎		◎	「地域と学校」は、ユニークな活動で、今後もその機会を広め継続して、地域の期待に応えて欲しい。	◎	学校規模の縮小に伴い、講座開講は難しくなるが、行事とも連携させ、地域の方々と学ぶ機会を持てるよう計画する。	
	生徒指導	校外での迷惑行為(無断駐車・駐輪、蛸集たむろ等)の指導を行う。	地域の方からの通報があれば直ちに現場へ向かった。登校時、下校時の巡回も続けている。	継続する。	迷惑行為の苦情電話は減った。バイク、車での通学についても、見回り等の成果が出ていると思われる。	◎	学年通信の発行や学校行事について満足しています。教員の皆様が年々減っていく中で、先生同士が結束し、生徒に接してくれていると理解しています。引き続きよろしくお願いたします。	◎		◎	今後は最終年度の自覚の下で、自らを律する姿勢・行動の姿を定着させて欲しい。	◎	校外の見回りを通じて地域の方と言葉を交わして、教員の目の届かぬ所での生徒の様子などについて情報収集を図る。	
	進路指導	進路だよりを毎月発行する。進路や奨学金に関する情報を提供し、生徒の進路実現へのサポートをする。	毎月進路だよりを発行することができた。	必要なときに必要な情報を発信できるように適宜発行していきたい。	必要な情報を提供できたつもりではあるが、それを読んでいただいているかどうかはしっかり確認ができていないため、家庭や地域に直接発信する方法を考える必要がある。	○		○	○		○	進路実現には、情報発信が、特に課題として重視されるので、よりきめ細かな支援を期待したい。	○	今後も進路だよりを定期的に発行し、必要な情報を発信する。
	保健厚生	校舎外(地域)の清掃ボランティア作業を実施する。	ボランティアの生徒と共に校外の清掃活動を行うことができた。	引き続き清掃活動をする。	ボランティアも4年生が積極的に参加してくれた。より多くの生徒が参加してくれるよう努力したい。	◎		◎	◎		◎	清美活動は、自分の精神(心)を磨くことでもある。今後の人間形成の礎の位置づけとしてほしい。	◎	引き続き積極的にボランティア活動に参加してくれるように呼びかける。
	情報ビジネス	本校生徒が主体となった「パソコン体験講座」を開講し、こどもから大人まで楽しめる講座を目指す。	考査毎に情報ビジネス科通信を発行することができた。	12月にパソコン体験講座を実施予定である。	昨年度参加された方が本年度も参加してくださるなど、地域に定着した行事となりつつある。今後は新規の方にも参加していただけるような方法を考えていきたい。	○		○	○		○	「市高だより」で紹介もされているが、各種講座の案内についての広報方法について工夫してもらえればと思う。	◎	生徒と地域の方がもっと交流できるような内容を実施する。
	事務室	地域の方々と信頼関係を築くために会議等に出席する。	会議等に出席して、地域の方々と信頼関係を築くことができた。	引き続き信頼関係を築くように会議等に出席する。	昨年に引き続き、地域の方々と信頼関係を築くことができ、本校への理解が深まっているように思える。	◎		◎	◎		◎	総務の活動とも相まって、地域ブロック会議を通じての広報紙配布の意義はきわめて大きい。	◎	引き続き継続していく。

自己評価の総括

移転後2年が経過し、本校に対する地域の方々の理解が深まっているように感じる。また、生徒・職員とも阪神昆陽高校との学校生活に慣れると共に、相互理解も進み教育活動がうまく展開できている。ただし、来年度は生徒数が大きく変化するため、より一層の連絡調整と配慮が必要である。

学校関係者評価の総括

いよいよ新年度は、この地での3年間を含め、市高定時制独立校として出発して以来、半世紀の歴史を経て、最終年度を迎えることになる。この間、①学習習慣の確立、②個別指導の徹底、③社会性の育成、④家庭・地域との連携等の重点目標が掲げられ、実践された。については、有終の美を飾って閉校するためにも、各分野で、これらの実践を受けての総仕上げで、師弟共々、学校挙げて燃焼し尽くすことへの課題に取り組んで欲しい。

次年度に向けた重点的な改善点

本校の最終年度であることに鑑み、個々の生徒に応じた丁寧かつ手厚い指導をいっそう充実させるとともに、地域の方々の心に残る教育活動が展開できるよう生徒・職員が一丸となって積極的に取り組む。